

ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

May, 2023
No.44

支部・委員会活動報告特集

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局
(旧映画英語教育学会)
住所 : 〒605-8501
京都市東山区今熊野北日吉町 35
京都女子大学 文学部
横山仁視研究室内
E-mail : office@atem.org
郵便振替 : 00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

■会長挨拶

ATEM President

YOKOYAMA Hitoshi
(Kyoto Women's University)

ATEM 会長

横山 仁視 (京都女子大学)



日頃より多方面から本学会の活動にご理解とご協力をいただきまして、お礼申し上げます。

2020年新学期直前にコロナが発生してから4年経ち、全国的に対面での授業再開となった今年、どこことなく新鮮な気持ちになった会員諸氏も多いのではないのでしょうか。私の勤務する大学のことで恐縮ですが、コロナ元年に採用されたある先生が、この新学期が始まるまで、私が髭をつけていたことに全く気付いておられませんでした。マスク顔では表情が見えず、淡々とした音声言語中心の伝達が多かったことによるのでしょうか、次の言葉が思い出されました。“In international relationships, our face communicates our emotions.” (Ekman, 1987)

一方で、今日では、人工知能チャットボット ChatGPT (2022年11月公開) の登場が、外国語教育のみならず、広く教育の現場に悪影響を及ぼすことが懸念されています。DeepL 同様に、学習者が自ら積極的に考える姿勢・能力を大切しながら、技術革新の成果物の賢明な活用を心がけたいものです。

さて、新学年暦を迎えるにあたり、皆様に次の3点をお伝えします。

1. 新たな会員管理システム「MiiT+ (ミータス)」の稼働
2. 事務局会計担当者の交代
3. ATEM、STEMの全国大会

従来からの会員システムが老朽化していることにより、事務処理に支障をきたしておりましたが、会員管理担当の専務理事嘉来純一先生(早稲田大学本庄高等学院、東日本支部)の多大なるご尽力により、「MiiT+ (ミータス)」がこの4月

より稼働いたしました。学会 HP のトップに掲載しておりますように、本人認証の実施にご協力をお願いいたします。

事務局の会計担当者が、金田直子先生(神戸女子大学、西日本支部)から濱上桂菜先生(立命館大学、東日本支部)に正式に交代いたします(交代時期は、学会 HP、会員メールで後日連絡)。広真アド様より事務局を引継ぎ、これまでの専門的な業務用決算報告書仕様の会計ソフトを使用せず、身近な Excel の活用により、担当者が交代しても無理なく引き継げる体制になった(会計監査担当の公認会計士承認済)のは、金田先生のご尽力の賜物です。今後、一定の期間ごとに会計担当者が入れ替わり、全支部が本業務に携わっていくようにいたします。

今年度の全国大会は、11月4日(土)～5日(日)の2日間にわたってオンラインで開催します。対面で実施したいの言うまでもありませんが、諸事情により、過去2年間のノウハウを生かしてリモートで実施します。なお、2024年度の全国大会は、対面にて、新しくキャンパスが整備された京都女子大学で開催することとしています。一方、姉妹学会の STEM の本年度全国大会は、10月28日(土)(Kookmin University、ソウル市)、対面にて開催の予定です(詳細は本紙 p.5 を参照)。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

最後に3点お願いし、締め言葉といたします。1点目は、SVP (STEM Virtual Presentation) への参加のお願いです。2020年以降のコロナ禍において、姉妹学会の韓国の STEM から定期的に案内が届いております。興味深いテーマが満載となっております。2点目は、OOPS (Open Online Presentation Series) での発表者の協力と参加のお願いです。発表を希望する会員は、随時、office@atem.org まで連絡をお願いいたします。3点目は、各支部および SIG へのお願いです。全国大会・支部大会での発表以外にも、自主的なシンポジウムやワークショップ開催の検討をお願いいたします。本部としても、できる限り運営・広報のお手伝いさせていただきます。

第 28 回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会

The 28th ATEM (The Association for Teaching English through Multimedia) National Convention

開催日：令和 5 年 11 月 4 日 (土) - 5 日 (日) Date: Nov. 4 (Sat.) - 5 (Sun.), 2023

会場：オンライン Place: Online

テーマ：映像メディアで英語感覚と異文化理解を育む

Theme: Fostering Linguistic and Cultural Senses Through Multimedia

本年 11 月 4 日～5 日、ATEM は、「英語感覚と異文化理解」をテーマに、第 28 回全国大会を再び全面オンライン (Zoom) で開催いたします。コロナ禍を経て、私たちは国内遠隔地や国外の研究者たちとのネットによる交流を、より一層深めたいと願っています。大会プログラムには、ピーターセン先生による特別講演、ATEM 主催の著作権ワークショップや各支部の研究グループによるシンポジウムも予定されています。スマホ1つあれば、世界中からアクセスできるオンライン大会！皆さま、今年も奮ってご参加下さい。

■ 特別講演

マーク・ピーターセンの 映画で学ぶ英語感覚

Learning, through Film, to Appreciate Linguistic Sensibilities in English

講師：Mark Petersen 先生 (明治大学名誉教授)



ピーターセン先生といえば、累計 100 万部を超える『日本人の英語』などの英語解説シリーズ (岩波新書) の著者として有名ですが、今回は、『ローマの休日』、『雨に唄えば』、『オズの魔法使』などの映画のせりふを引用しながら、学習者が学ぶべき「英語感覚」についてお話しいたします。日本語の達人でもある先生のユニークな視点の講演にご期待下さい。

【講師プロフィール】 明治大学名誉教授。アメリカ・ウィスコンシン州生まれ。ワシントン大学大学院で近代日本文学を専攻。明治大学教授、金沢星稜大学教授を歴任。主な著書に『日本人の英語』『続 日本人の英語』『心にとどく英語』『実践 日本人の英語』(以上 岩波新書)、『英語の壁』(文春新書)、『ニホン語、話せますか？』(新潮社)、『日本人が誤解する英語』(光文社知恵の森文庫) などがある。

特別ワークショップ 「映像メディア教育と著作権」

主催：ATEM 著作権問題専門委員会

英語の授業で、皆さんが映画などの映像作品を丸ごと上映したり、ビデオの部分的コピーを学生に見せたりする時、「これって、著作権だいじょうぶ？」と心配になることはありませんか？このワークショップでは、西日本支部のグループが研究を重ねた結果をケースごとにまとめ、法的なポイントをクイズ形式で分かりやすく解説します。

【研究発表応募方法】

ATEM ホームページ (<http://www.atem.org>) の募集要項に従い、必要事項を記入したメールを ATEM 事務局 office@atem.org までお送り下さい。※English presentations will be welcomed.

募集期間：2023 年 6 月 6 日 (火) ～ 7 月 7 日 (金)

応募資格：2023 年度分会費を納入済の ATEM 会員

※会費納入の確認に数日を要しますので、早めにご納入ください。

大会詳細は、発表者決定後、ATEM の HP に掲載します。HP へは、QR コードからもアクセス可能です。



プログラム

11 月 4 日 (土) 1 日目

13:30-13:40	開会式
13:45-14:15	STEM 特別発表
14:20-15:20	SIG シンポジウム 1
15:25-16:25	SIG シンポジウム 2
16:30-17:15	特別ワークショップ
17:20-17:40	総会(会員のみ)

11 月 5 日 (日) 2 日目

10:00-10:25	研究発表 1
10:30-10:55	研究発表 2
11:00-11:25	研究発表 3
11:30-11:55	研究発表 4
12:05-12:20	賛助会員発表 1
12:20-12:35	賛助会員発表 2
12:35-12:50	賛助会員発表 3
12:50-13:05	賛助会員発表 4
13:05-13:20	賛助会員発表 5
13:25-13:50	研究発表 5
13:55-14:20	研究発表 6
14:25-14:50	研究発表 7
14:55-15:20	研究発表 8
15:25-15:50	研究発表 9
16:00-17:15	特別講演
17:15-17:20	閉会式

■支部だより■

【北海道支部】

◆2023年1月22日(日)に、第11回北海道支部大会(Zoomでのオンライン形式)を開催しました。今大会では「英語教育における音楽の活用方法を探る」というテーマを掲げ、音楽に関わる発表をメインに公募し開催をしました。基調講演として、音楽をテーマとした英語の教科書を出版されている角山照彦先生(広島国際大学)に「ポップスを使った教材開発: 投げ込み教材、授業プリントで終わらせないために」という題目でご講演いただきました。一般発表としては6件(北海道支部4件、他支部2件)があり、音楽の活用法から、音楽を通して見えてくる異文化など、幅広いテーマから音楽と英語教育の探究がされました。また大会後には1時間ほどオンラインでの交流会も開催し、支部間交流の貴重な機会となりました。全国から30名ほどの方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

◆2022年度の4月から、月例ミーティングに合わせてカジュアルな情報交換の場である「マイシェア」を開催してきました。研究発表からちょっとした相談事など、担当者が自由なテーマを持ち寄り、交流をしてきました。2023年度も毎月開催しますので、どうぞお気軽にご参加ください(他支部・非会員の参加も大歓迎です。詳細は支部HPへ)。

◆北海道支部のTwitter(@ATEMhokkaido)では支部情報とミニコラムを週に一本ずつ投稿しています。ぜひフォローをお願いいたします。



(支部長: 斉藤 巧弥)

【東日本支部】

◆2022年12月17日(土)に、第13回ATEM東日本支部大会(ハイブリッド形式)を東京工業大学で実施しました。発表者、参加者および運営委員に感謝申し上げます。プログラムは以下の通りです。

【研究発表】

① NAKAMURA Sachiko (Tohoku University)

How can we make the best use of pattern practice in the digital era?

② SPRING, Ryan (Tohoku University)

Statistics for Linguistics and Language Education Made Easy

③ KAVANAGH, Barry (Tohoku University)

The potential of satire to introduce global issues and enhance critical thinking skills

④ 高橋亮太 (兵庫県立大学)

『ボス・ベイビー』(Boss Baby, 2017)にみる家族の絆を深める英語

⑤ 小泉勇人 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院)

英語音読用教材としてのA.シュワルツェネッガー英語一ウクライナ侵攻から想起される父のトラウマと、陰謀論への抵抗

◆2023年7月1日(土)に東京で夏季例会、9月ごろ東北研究会、12月に東京で支部大会を計画中です。発表募集などの詳細は、後日お知らせします。

◆支部HPに掲載中のコラム「東日本支部便り」も是非ご一読ください。

(支部長: 日影 尚之)

【西日本支部】

◆2023年3月5日(日)に、第19回西日本支部大会(Zoomでのオンライン形式)を開催しました。西日本支部では2019年より著作権勉強会を立ち上げて活動しておりますが、今回はこれまでの取り組みや、教育・研究の具体的な場面における映像メディアの活用に関わる著作権問題について振り返りを行いました。また、企画ワークショップとして、岐阜大学の飯田泰弘先生と大阪星光学院の松田拓之先生から、中学校や高等学校の英語の授業における映像メディアの活用について、具体的なアイデアやノウハウ、そして実践的な取り組みについてご紹介いただきました。加えて、今回は大学院生2名の発表を含む5件の研究発表もありました。

◆2023年9月2日(土)には支部発足20周年を記念した支部大会を京都外国語大学で対面にて開催を予定しております。記念大会では、ATEM関西支部(西日本支部の前身)の発足にもご尽力いただきました京都外国語大学名誉教授の赤野一郎先生と、西日本支部が取り組んでいる著作権問題勉強会でいつもご指導いただいている大阪工業大学の甲野正道先生にご講演いただくこととなっております。また、研究発表につきましては2023年3月20日(月)～5月28日(日)の期間募集しておりますので、是非日頃の研究成果を発表していただきたいと思っております。詳細につきましては、支部HPと西日本支部のTwitterでお知らせしてまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

(支部長：近藤 暁子)

【九州支部】

◆前号でも簡単に紹介しましたが、2022年8月27日(土)に、第25回九州支部大会(Zoomでのオンライン形式)を開催しました。当日は5件の発表と1件のシンポジウムがありました。教員/学生/社会人、あるいは研究者/教育者/学習者等々、異なる立場・多様な観点からのご発表があり、見ごたえのある大会となりました。当日は大学院生によるご発表が2件ありましたが、いずれも英語教育への情熱を感じる内容で、大会にいい緊張感をもたらしていただきました。また支部交流枠でご発表くださった北海道支部の皆さんのプレゼンテーションでは、企業人、あるいは生涯学習者としての立場から英語学習のあり方についてご発表いただきました。学び続ける姿に、英語学習への刺激を受けられた方も多かったようです。大会後には「オンライン親睦会」と銘打ち、近況報告や発表へのコメントをひとつずつ行う時間を設けました。短い時間でしたが、ご参加くださった皆さんの気を張らないくだけたお話が聞け、ほっとするひとときとなりました。これまで3度オンライン大会を行ってきましたが、ようやく学会としての重要な役割である「交流」面も少しだけ行うことができたように感じています。当日は長丁場でしたが、ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

◆2023年度の支部大会は8月26日(土)に佐賀大学(本庄キャンパス)にて開催します。数年ぶりの対面形式での開催です。奮ってご参加ください。



オンライン九州支部大会の様子

(支部長：吉村 圭)

■委員会だより■

【国際交流委員会】

◆コロナ禍の影響を受け、STEM 全国大会は 2022 年も中止となりましたが、2023 年から対面で再開する予定です。会員の皆様、今後の積極的なご参加をお待ちしております。なお、本学会の OOPS (Open Online Presentation Series) には STEM の方々が大勢参加していただいております。ATEM から STEM Virtual Presentation に参加している方々が多数いらっしゃいます。また、ジャーナルでの交流も継続しており、ATEM 西日本支部の北岡一弘先生 (奈良大学) が 2023 年 2 月の STEM Journal に論文を投稿されました。

◆2022 年度から、国際交流委員長が井村誠先生 (大阪工業大学) から Ryan Spring (東北大学) に交代しました。

(委員長 : Ryan Spring)

【会員管理委員会】

◆新たな会員管理システムとして、MiiT+ (ミータス) を導入しました。ログインの仕方は、最終ページに記載されている「会員専用ページ (MiiT+ (ミータス))」をご参照ください。MiiT+の利用にあたっては本人認証を行う必要がありますが、先日「ATEM メール」から送信された「仮ログイン ID」および「仮パスワード」を使って、ATEM 本人認証画面 <https://miitus.jp/t/ATEM/login/temp/> から、本人認証の実施をお願いいたします。こちらのページ内一番下の「仮ログイン ID 入力」をクリックすると、「仮ログイン ID」「仮 Password」「Email アドレス」を入力する画面が出てきますので、それぞれご入力をお願いいたします。その後「電話番号」を入力する画面が出てきます。ATEM に登録している電話番号 (登録していない場合は 000-0000-0000) を入力していただきますと、先に画面が進みます。さらに指示に従って入力をしていただきますと、本人認証ができ、MiiT+にログインすることができます。その他詳細が記載されているマニュアルは ATEM ウェブサイト <http://www.atem.org/> からダウンロードすることができます。

(委員長 : 嘉来 純一)

姉妹学会情報

STEM 国際大会

開催日 : 2023 年 10 月 28 日 (土)

会場 : Kookmin University, Seoul

テーマ : Equity, Responsibilities and the Future of Learning

★追加情報は、ATEM の HP や Twitter で !

【ICT委員会】

◆2023 年 4 月より新たな会員管理システム MiiT+ が導入されましたが、それに伴い、本部 HP でも一部変更を行いました。ページ左側のメニューの「会員」の下に、「MiiT+マニュアル」という項目を追加しました。ここをクリックすると、当学会会員用のマニュアル (pdf ファイル) をダウンロードすることができます。MiiT+を利用される際にはご一読ください。システムに関して新しい情報などがありましたら HP の ATEM News でお知らせしますので、頻りにチェックをしていただきますようお願いいたします。

(委員長 : 巳波 義典)

【大会運営委員会】

◆今年のATEM全国大会は、11月4日～5日の2日間、再び全面オンライン (Zoom) で開催されます。大会1日目には STEM 会員による特別発表、各 SIG (Special Interest Group) によるシンポジウム、著作権問題専門委員会主催のワークショップ、およびATEM総会。2日目にはATEM・STEM会員の研究発表、賛助会員による教材の紹介、マーク・ピーターセン先生 (明治大学名誉教授) による特別講演などが予定されています。盛会になりますよう、各会員・各支部のご支援ご協力をお願いいたします。

全国大会の詳細は本部 HP に掲載します。

<http://atem.org/28th.html>

※<http://atem.org> トップメニュー「全国大会」→「第 28 回 ATEM 全国大会」からアクセスできます。

※大会で研究発表を希望する会員は、HP の ATEM ニュースに掲載された「大会発表募集要項」に従って、メールでお申し込み下さい。

(委員長 : 藤枝 善之)

【ジャーナル編集委員会】

◆ATEM ジャーナル第 28 号には 10 編の論文の投稿がありました。分野別では、教育 6 編、文化 2 編、言語 1 編、文学 1 編でした。また支部別では、北海道 1 編、東日本 4 編、中部 1 編、西日本 2 編、九州 2 編と、全ての支部から投稿がありました。今回は、論文の審査に 18 名の査読委員の皆様のご協力を賜りました。お忙しいところ審査いただき、改めて御礼申し上げます。厳正なる審査の結果、5 編の論文（研究論文 3 編、教育実践報告 2 編）が掲載されることとなりました。

◆APA 論文作成マニュアル第 7 版の出版に合わせて、第 27 号より投稿者用ガイドラインが更新されましたが、今後もその内容をより理解しやすいものに改善すべく努めてまいりたいと思います。また、ATEM ジャーナルの編集作業の効率化も、引き続き進めてまいります。さらには、ATEM ジャーナルの電子ジャーナル化につきましても関連する委員会との協力のもと検討を進めていく所存です。次号につきましても、会員の皆様からの論文のご投稿をお待ち申し上げます。

（委員長：足利 俊彦）

●ATEM 論文リンク集●

J-STAGE で閲覧が可能な、ATEM ジャーナル『映像メディア英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記 URL よりアクセスできます。

<http://atem.org/papers.html>

【広報委員会】

◆いつも本紙への情報提供にご協力いただいております皆様に、心よりお礼申し上げます。本紙は年 2 回、春夏号と秋冬号を発行しております。例年 2 月発行の秋冬号は、オンライン版のみとなっておりますので、本部 HP をご確認ください。同 HP でバックナンバーもご覧いただけます。

◆2023 年の全国大会もオンライン開催になりました。大会中 Zoom 画面の写真を撮影し、本紙や学会本部 HP で使わせていただきますので、ご都合が悪い場合はカメラをオフにしてください。皆様のご協力に感謝申し上げます。

（委員長：秋好 礼子）

受賞のことば

＜ATEM ジャーナル第 27 号 優秀論文賞＞

Using Digital Storytelling and Project-based Learning with Elementary School EFL Learners

Ryan Spring (Tohoku University)

Thiri Soe (Tohoku University)

Christopher Aiezza (Miyagi Prefecture Tomiyama City Board of Education)

We are honored to receive this award and would like to thank the reviewers, journal editorial board, the ATEM members at large, the internal review board members, and participants of the study.

As Japan moves to teach English to younger learners by beginning mandatory English classes earlier in primary education, we need to look more closely at what kinds of activities and educational practices will be appropriate for these young learners. Furthermore, we also need to carefully monitor how this will impact older learners who will soon be prepared for more advanced activities in the near future. We worked together in this paper to validate existing methodologies and glean what we could about the future of elementary and junior high school teaching in Japan, bringing together research and practical application, and found important implications for the shifting future. We hope to continue to use digital media in our English teaching and continue to support and work with ATEM to conduct studies, share teaching ideas, and improve our own English education techniques in the future.



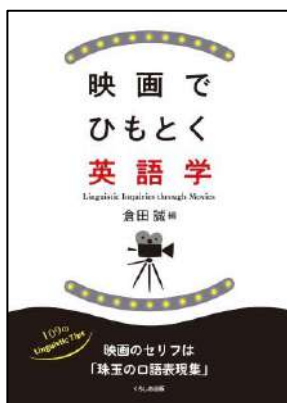
（左から）Spring 先生、Aiezza 先生、Soe 先生

■書籍紹介

『映画でひもとく英語学』

(くろしお出版 2023)

倉田誠 (編著)



本書『映画でひもとく英語学』は、映画やドラマで使用されている実践的なフレーズを取り上げ、英語学の知見からひもといていくものです。動画配信サイト等の普及によって、映画はより身近な学習素材となりましたが、最初になぜ映画なのかを考えてみます。

英語は何よりもまず「ことば」であり、文化そのものです。そして「ことば」と文化は私たちの日常や現実を構造化するものです。映画が重要な理由は、日常や現実

を生み出すコンテキストの存在があるからです。このコンテキストこそが「生きた英語」を生み出していると言えるのではないのでしょうか。なぜなら映画には必ずセリフに対する背景があり、特定の人物が、特定の相手に対して、ある明確な意図を持って、その場所において発する「ことば」だからです。

私たちの思う以上に映画のセリフは「生きた」ものとして選択されています。

さて、本書の大きな特徴の一つは、「KUFUS 映画・ドラマデータベース」(衛藤圭一代表)を使用していることでしょう。このデータベースは、京都外国語大学・短期大学令和3年度教育メソッド・教育コンテンツ研究の学内競争的資金の助成を受け、共同研究者、及び協力者と共に構築されたもので、世間の関心が高く、読者がアクセスしやすい「アカデミー賞受賞・ノミネート作品」や「国内興行収入ランキング入り作品」が中心に採用されています。

また例文に使用された作品は、2000年から2020年代に公開された映画342本に加えて、9種の海外ドラマ全シーズン1463本に及びます。データファイル数の合計は1805本で、のべ語数(トークン)は1388万6100、重複を除いた異なり語数は10万5000という膨大な

データからセリフが選択されています。著者全員が、それぞれ解説しているフレーズの映画・ドラマを視聴した上で執筆していることも、背景を理解しているという点で重要でしょう。映画やドラマはいつも時代を映す文化的背景を含むため、今の「生きた英語」や変化し続ける言語の現状を知る機会にもなります。

さらに注目したのは、2020年代から過去20年間の入試問題のデータから抽出された例文が掲載されている点です。映画のセリフだけでなく、入試問題の用例を見ることで、それぞれの項目が決して特殊なものではないことに気づかせてくれます。例えば、第1章の「10. フラット副詞」では、形容詞の形のまま副詞的に使用されるもので、普段何気なく触れる機会のある *think global, act local* のようなフレーズが頭によぎります。ましてや入試に出題される実用表現があるなら、学習者こそ知っておくべき項目なのです。

前作『映画で学ぶ英語学』(くろしお出版)では、映画のシーンから抜粋された例が必要に応じて3ページ



にわたって掲載されていましたが、本作では見開き1ページで各項目が完結されているため、構成がより理解しやすくなっています。最初に映画のフレーズ、次の *Linguistic tips* で英語学の解説がされた後、*Solidify Your Studies* で入試の例文が紹介され、最後の *wrap it up* で

自分のことばに置き換えて練習し、「学び」の仕上げを確認することができます。さらにQRコードを読み込むことで例文の音声聞くことができるため、学生にとっても学習の助けとなることでしょう。

話し手がなぜこの表現の仕方を選んだのかについて、つまりコンテキストについて納得のいく説明がされていることが本書の大きな特徴だと私は考えています。コンテキストを理解した上で「生きた」表現を学ぶという視点から見れば、英語学の専門家だけでなく、英語学を専門としない人こそ活用できる本ではないでしょうか。

(京都外国語短期大学 辰巳 遼)

INFORMATION

このくろしお出版の企画から、Asahi Weekly のコラムが生まれました。コラムの名称は、「メディアでひもとく英語の世界」です。タブロイド版の2/3ページの大きさで、音声ダウンロードもできます。

■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ(マイページ)」は本部ウェブサイト「Menu」の「会員」から「会員専用ページ」へログイン
 にご利用ください。 <http://atem.org>

新会員管理システム MiiT+（ミータス）では、「マイページ」から会員情報の変更、支払い履歴の確認が可能
 可能です。※不明点は本部事務局へお問合せください。

ATEM Clapper Board



1. 本年度（4月1日～翌年3月31日）の会費振込用紙が同封されております。6月30日までにご納入ください。
 個別の納入状況については、本部HP内にある「会員管理システム」（アクセス方法はこの頁の上部参照）で確認できます。

※振込用紙の通信欄にどの年度の会費かについて西暦の数字を記入して下さい。今年度の会費の場合は「2023」、昨年度と今年度の会費の場合は「2022-2023」とご記入下さい。
 2. 今4月より会員管理システムが変わりました。HPおよび上記をご参照下さい。

事務局 office@atem.org
 事務局長：藤枝 善之

＜賛助会員一覧＞（50音順）2023.4.1現在

朝日出版社／英宝社／桐原書店／金星堂／
 国際トラベル京都／コスモピア／松柏社／
 成美堂／セングージラーニング／モデル・
 ランゲージ・スタジオ

INFORMATION

『コロナとアカデミア』

（雷音学術出版）
 茂木謙之介・大嶋えり子・
 小泉勇人 編著

コロナ禍における、日本全国の
 様々な大学教育を紹介。
 ネット上で閲覧・無料ダウンロード可能。



～編集後記～

- ・お忙しい年度末・年度初めにもかかわらず、原稿作成や校正にご協力くださった皆様、心より感謝申し上げます。
- ・次号（No.45、第28回全国大会特集）は、2024年2月の発行を目指しております。

[NL編集委員会] 2023.4.1現在

委員長：秋好 礼子（九州）

委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）
 衛藤 圭一（西日本） 石田 もとな（九州）

ATEM 本部 Twitter(@ATEM_news)でも
 情報発信をしています。